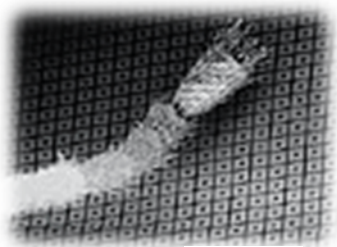


第四回 次世代の物質科学・ナノサイエンスを探る

「Silicon as a mechanical material」とは1982年のKurt E. Petersen博士が、それまで主として電子デバイスに使われていたシリコンに、機械的特性を活かしたデバイスの可能性があることを示唆した言葉である。以来、多くのマイクロセンサやアクチュエータが開発され、実用化に至った。理工工学を問わず、物質の新たな側面に光を当てることで全く新しい展開が可能になる。今回も、様々な物質の特性を活かし、広い視野から新たなナノサイエンスやデバイス開発に挑む新進気鋭の研究者にご講演いただき、新たな年の研究の展開について議論したい。



www.dlp.com

日時 2015年1月9日(金) 13:00-20:00
場所 北海道大学百年記念会館
主催 知の協奏を目指すソフトおよびナノマテリアル研究会
共催 フロンティア化学教育研究センター
(文部科学省特別経費「分子構築イノベーション」)
マイクロ・ナノ医療デバイス研究会(機械学会, 電気学会)
参加費 一般1000円 学生無料, 交流会費 5000円

13:00~13:05 開会の辞

13:10~13:50 「分子の回転を利用した電子材料の開拓」

中村貴義(北海道大学)

13:50~14:20 「マイクロ・ナノ医療デバイスとその実装技術」

三木則尚(慶應義塾大学)

14:20~14:50 「折り紙が技術を変える ~バイオ・医療への応用~」

繁富(栗林)香織(北海道大学)

14:50~15:20 「金属ナノ粒子を用いたバイオマニピュレーションとセンシング」

横川雅俊(筑波大学)

15:20~16:00 ポスターセッション

16:00~16:30 「TBA」

岡本敏宏(東京大学)

16:30~17:00 「共役高分子の分子運動特性と励起子ダイナミクス」

川口大輔(九州大学)

17:00~17:30 「高分子ゲルの光学的及び力学的機能化」

竹岡敬和(名古屋大学)

17:30~17:40 閉会の辞

18:30~20:00 自由討論・研究交流会



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

Frontier Chemistry Center
フロンティア化学教育研究センター

世話人
横川隆司(京都大学)
横山英明(東京大学)
角五彰(北海道大学)